
恋の行方

明

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

恋の行方

【Nコード】

N1777A

【作者名】

明

【あらすじ】

ある時恋をした男の子のストーリーです。

（前書き）

こんなことあったなあ。くらいに思えていただけたら幸いです（*
^ | ^ *）

感想お待ちしてますm（ | ） m

俺はある女の子に恋をした。自然と。

ただ話せるだけで幸せだと思える。内容は単純なもの。

「あのゲームはここが・・・」

「はあそうなんだ。それで？」

とか。ごくごく単純。でも純粹に楽しかった。

一緒にいるだけで本当にうれしい。たまに自分の単純さにイヤになるときもあつたけど。

僕は君が好きだとは言えなかった。怖かった。

怯えた犬のように震えているだけの脆弱な人間なんだ。

幸せにさせるなんて言えない。

だって僕はただ怯えているだけの弱虫だから。

僕は僕を否定したい。こんな自分がイヤだから。

こんなにも切なく愛しいと思える君がすぐ傍にいるのにひどく距離を感じる。

何度も言おうと思った。でもできなかった。本当に愛しているから、好きだから。

これ以上君と距離を取りたくなかった。

君が離れていくのが怖かった。

なにも言えずなにもできない。

こんな僕に君は高嶺の花だ。

何をしても君には届かないんだ。

どれだけ好きだとさけんでも。どうすればいいんだろう？ 苦しいよ。言葉にできない。

身動きさえできない牢獄のようだった。

立ち上がることさえかなわない。

勇気をしめすこともできない。

なにもできない。

無力な自分。

そして僕は君と学校から離れた。
逃げた訳じゃない。

そうなるべくして離れた。

風のうわさで君に彼氏ができたと聞いた。
そいつは僕の知ってるヤツ。

複雑な心境だった。

どう自分をごまかすかだけ考えた。
君が離れていく。

そのことしか理解できなかった。
寂しいけど僕は君を忘れよう。

もう会うこともない。

ありがとう、さようなら愛しいヒト。

君と過ごした日々を胸に僕は歩き続ける。 だけど心は君といたとき
のままなんだ。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1777a/>

恋の行方

2011年1月12日04時15分発行